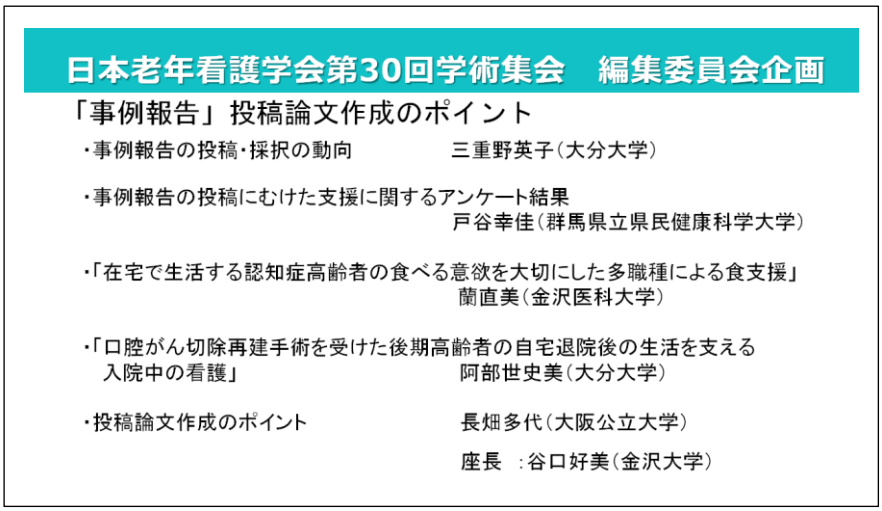
第 30 回日本老年看護学会学術集会 編集委員会企画 評価アンケート結果

【企画内容】

テーマ：「事例報告」投稿論文作成のポイント

日　時：対面（幕張メッセ国際会議場） 2025 年 6 月 29 日（日）13：30～14：30

オンデマンド配信 2025 年 7 月 15 日（火）～9 月 1 日（月）



【評価アンケート】

調査対象：編集委員会企画に参加した会員（オンデマンド参加も含む）

調査方法：Google フォームを用いた Web 調査

調査期間：編集委員会対面開催 6 月 29 日（日）～オンデマンド配信終了 7 月 31 日（木）

結果公表：・ホームページ or メルマガにおいて、調査結果の概要報告

・学会誌編集委員会報告（第 30 巻第 2 号 or 第 31 巻第 1 号）において、「事例報告」推進の取り組み等について報告

【結果】回収数：62 人

1．回答者の背景

1）属性

	人数	%
看護実践者	49	79.0
教育研究者	13	21.0
計	62	100.0

2）参加方法

	全体	看護実践者	教育研究者
対面	51 人（82.3%）	39 人（79.6%）	12 人（92.3%）
オンデマンド	11 人（17.7%）	10 人（20.4%）	1 人（7.7%）
計	62 人（100%）	49 人（100%）	13 人（100%）

２．編集委員会企画についての評価

項　目		全体 n=62	看護実践者 n=49	教育研究者 n=13
1)全体的な感想	よかった	50(80.6)	37(75.5)	13(100.0)
	ややよかった	11(17.7)	11(22.4)	0
	どちらともいえない	1(1.6)	1(2.0)	0
	ややよくなかった	0	0	0
	よくなかった	0	0	0
2)論文作成のポイントの理解	理解できた	33(53.2)	23(46.9)	10(76.9)
	やや理解できた	27(43.5)	24(49.0)	3(23.1)
	どちらともいえない	2(3.2)	2(4.1)	0
	あまり理解できなかった	0	0	0
	理解できなかった	0	0	0
3)体験談によるヒント・モチベーションの獲得	得られた	40(64.5)	30(61.2)	10(76.9)
	やや得られた	21(33.9)	18(36.7)	3(23.1)
	どちらともいえない	1(1.6)	1(2.0)	0
	あまり得られなかった	0	0	0
	得られなかった	0	0	0

＜質問文＞
１．編集委員会企画の全体的な感想について、該当するもの一つをチェックしてください。
２．全体をとおして「事例報告」論文作成のポイントの理解について、該当するもの一つをチェックしてください。
３．今回、お二人の投稿者にご協力いただき「事例報告」の投稿・査読過程をお話しいただきました。「事例報告」論文作成にむけたヒントやモチベーションが得られたでしょうか。該当するもの一つをチェックしてください。

4)感想・意見（自由回答）

＜質問文＞ 今回の委員会企画について率直なご感想・ご意見をお聞かせください。

	全体 n=62	看護実践者 n=49	教育研究者 n=13
記述回答人数	25 人（40.3%）	19 人（38.8%）	6 人（46.2%）

〔看護実践者〕

・事例報告をする意欲に繋がりました。
・投稿にチャレンジしてみたい。
・少し投稿するハードルが下がった気がした。
・大変参考になりました。ありがとうございました。
・報告などはハードルが高いと感じていたが、今回の研修で分かりやすく、前向きに考える機会となりました。
・わかりやすく説明されたのでいつか挑戦してみたいと思った。

・事例報告を出してみたいという気持ちになった。
・事例報告にチャレンジしたい気持ちが高まりました。
・事例報告のまとめ方について参考になりました。自部署での発表やまとめの指導にも役立てようと思います。
・事例報告したいが、勉強不足で挑戦できていません。近くに相談できる方や職場の協力も重要だと感じました。今回企画していただき、自身のモチベーションアップになりました。ありがとうございました。
・具体的に(実際に投稿された方のお話も含めて)話していただき理解しやすかったです。
・査読が思ったより怖いものじゃなくて少し安心しました。
・事例報告に挑戦したい気持ちはありますが、ハードルが高いと感じています。発表された方々は院や大学でそれなりに文章をしっかり書ける方でさえ、苦労されるのをみていると文章能力が低い自分は恥ずかしくて出せないと感じます。
・事例報告を言語化するのに、普段からどのような訓練をすると、わかりやすく言葉にできるか教えてほしい。
・学会誌に提出しなくても個人の事例のまとめにも活用できると感じた。
・資料をいただけるとありがたい
・いつも学びがあります
・オンデマンドで何度も視聴できることが良かったです
・事例報告は学会発表で行うのではなく学会誌に出すのか？声が小さくてオンデマンドだと聞き取りにくい。オンデマンド期間が働きながら、生活をしながらで2週間は少なすぎて急ぎ足で聞くしかなく全くあたまに入らない。

〔教育研究者〕
・二人の投稿者の発表がリアルでとてもわかりやすかった。
・やってみようと思いました。
・参加者にとってチャレンジしてみたいと思うような編集委員会企画でした。貴重な企画をありがとうございました。
・事例研究と事例報告との違いから教えていただきわかりやすかったです。事例のまとめ方について相談を受けることもあるので、とても参考になりました。
・発表の中で、査読の内容と修正前後の具体例があったのでイメージしやすかった。しかし、実践できるための自分ごとで実践できるかと自問自答。まずはやってみたいと思いました。
・教育現場に所属しているため事例がないというアンケート結果があり、確かにそうだなと思って聞いていました。教育学会のほうが適切なのかなと思いますが、老年看護学の発展のためには学生の看護を題材に考えるのも良いのではないかと思って聞いていました。

３．事例報告の論文の質量の充実にむけて編集委員会に期待すること

＜質問文＞ 今後、「事例報告」の論文の質量の充実にむけて、編集委員会に期待したいこと（学会全体への要望も含めて）について、該当するものにチェックしてください。

複数回答 数値は人数、（ ）内は%

項　目	全体 n=62	看護実践者 n=49	教育研究者 n=13
論文作成に関するガイド集	49（79.0）	40（81.6）	9（69.2）
論文作成に関するセミナー等の開催	42（67.7）	34（69.4）	8（61.5）
査読に関するガイド集	32（51.6）	23（46.9）	9（69.2）
査読に関するセミナー等の開催	21（33.9）	15（30.6）	6（46.2）
丁寧で教育的な査読	30（48.4）	24（49.0）	6（46.2）
迅速な査読	11（17.7）	9（18.4）	2（15.4）

４．学会誌の質向上にむけての意見

＜質問文＞ 学会誌「老年看護学」の質向上に向けて、ご意見をお聞かせください（論文投稿・査読プロセス、学会誌の内容など）。

	全体 n=62	看護実践者 n=49	教育研究者 n=13
記述回答人数	8 人（12.9%）	5 人（10.2%）	3 人（23.1%）

〔看護実践者〕

・事例報告は自分自身の実践の振り返りや看護の裏付けができました。

・様々な職場の方の事例研究や事例報告があると学びが深まると思います。同じ内容のことを臨床で行っていると、教育機関で働いている方々の報告や研究は大変勉強になり参考にしています。

・現在も参考にさせていただいております。引き続きお願いできれば、と思っております。

・文献を全てインターネットで見れるようになったら良いのにと思います。

・投稿経験がなくまだ意見はございません。

〔教育研究者〕

・査読までの平均の期間などが分かりますと幸いです。

・英文誌ができることを期待します。

・今日はありがとうございました。